



Referee Time

(審判だより85号)

2025.11.4

みなさん、こんにちは。報告が遅くなりましたが、10月3日(金)～7日(火)の間、島尻真理子さん、比嘉由紀乃さんペアが滋賀県で開催された国民スポーツ大会に参加してきました。2人より貴重な報告と大会資料が届いていますので、情報共有をお願い致します。各カテゴリー審判員、指導者も併せて今後のレフェリングに役立てて下さい。

令和7年度 第79回 国民スポーツ大会 参加報告

島尻真理子・比嘉由紀乃
(文責：比嘉)

滋賀県彦根市において、10月3日(金)～7日(火)の日程で開催されました第79回国民スポーツ大会に、島尻真理子・比嘉由紀乃ペアとして参加させていただきました。2025年7月から施行された競技規則の変更点について再確認するとともに、今大会を通しての重点目標として掲げられた、ゲームマネジメントに関する3項目(令和7年度 第79回国民スポーツ大会 審判・テクニカルオフィシャル関係資料)参照)について、映像クリップを用いた分析や意見交換、判定するための具体的な視点についてご指導いただきました。以下、レフェリーミーティングで主に取り上げられたテーマに関して、レフェリーとして大切にすべき考え方も踏まえ、報告をさせていただきます。

【レフェリーミーティングで取り上げられたテーマについて】

1. 7mスローの判定や罰則の付加も含めたゴールエリア際の見極め

(1) 判断基準

- ・明らかな得点チャンスかどうか。
(ゴールキーパー(以下、GK)と1対1か、攻撃側はシュートを試みているか)
- ・シュートに影響しているかどうか(位置・部位・程度・影響の見極め、危険性の有無)

(2) 判定する上での分析の視点(例)

- ・防御側プレイヤーによる相手との接触のスタートは、ゴールエリアの外側か、内側か。
- ・防御側がゴールエリアラインを踏んでいる場合、攻撃側の違反はない。

※ 最初に見るべき視点は防御側の位置

- ・攻撃側プレイヤー(GKと1対1)への利き手と逆側からの接触(特にプッシング)

※ 最も相手に危害を及ぼす可能性のあるファウルはプッシング。得点が決まったとしても、シューターはすぐには立ち上がれず帰陣できない。
つまり、「影響がある」ということ。

※ ボールを持たないプレーヤーに対するプッシングは、即座に2分間退場を判定すべき違反行為。(競技を中断するタイミングに関しては、得点に繋がるかどうかの見極めが必要)

- ・罰則の付加を考える場合、“得点の有無に関わらず罰則を判定するかどうか”という視点も判断材料の1つ。(「得点したから罰則を付けない、外したから罰則を付ける」ではない。)

※ シューターが打ち切るまでに防御側がそのプレーヤーに対して許されない行為をしていれば、得点が入ったとしても罰則を付けるべき。

(3) 留意点、予測しておくべきこと

- ・「起こるかもしれない」という視点を持って臨まないと、いざ起こったときに対応できなくなる。(開始1分でも起こりうる)
- ・攻撃側プレーヤーが、接触してきた防御側の腕を挟み込む(巻き込む)可能性もある。起こった瞬間に止め、防御側に注意した後、攻撃側にも注意。

※ 予防的行動

- ・7m スローを判定する場合、ボディランゲージを用いて、“誰が何をしたのか”本人にしっかり示すことが大事。

2. ピヴォットゾーンの管理 ※ 協働作業が必要なエリア

(1) ゴールレフェリー(以下、GR)の視点とコートレフェリー(以下、CR)の視点

【GRの視点】

- ・ピヴォットゾーンにおける「攻撃側の違反の有無」を最初にみる。

※ 例えば、ピヴォットプレーヤーが防御側プレーヤーの前に位置を取っている場合やピヴォットプレーヤーの前にボールが出された場合は、何かが起き始めると予測し、より集中力を高めて注視しておく。(ただし、ボールの位置や展開を配慮する必要あり)

【CRの視点】

- ・ボールを追いかけてつつも、ゴールエリア際、特にピヴォットプレーヤーを意識する。
- ・ピヴォットプレーヤーの視野に入る位置を取り、情報発信は常にCRから行う。

(2) ピヴォットゾーンを管理するための視点

- ・ピヴォットプレーヤーの“1番最初の攻撃側の違反”を見逃さないこと。

3. パッシブプレーの見極め

(1) 攻撃時のゲーム局面(カラーコードシステム)の理解

- ・通常の組み立て局面において、1度フリースローで止められたら「通常の組み立て局面は終了」という考え方。その後は、「より短い組み立て局面」に移行しないといけない。目安はフリースローから4~6回のパスの後に示す。ただし、必ずしも4回見ないといけないという訳ではない。
- ・モップを入れる等のタイムアウトの影響など「長く感じる」からといって、感覚だけで判定してはいけない。攻防の展開や局面を見極め、理論で考える。(チームタイムアウトは別)

(2) 留意点

- ・フリースローの直後、すぐにパッシブの予告合図を示してはいけない。
- ・パッシブの合図を挙げる際、2人のレフェリーが同時に挙げないといけない。
- ・攻撃側が前に攻めようとしている時に挙げてはいけない。

(3) ダイレクトでパッシブプレーを判定すべき特別な状況

- ・明らかな得点チャンスを放棄した場合、予告合図を示していなくてもパッシブを判定する。

(例) オープンスペースに飛び込みノーマーク状態なのにシュートを狙わない

- ・マンツーマン防御をされた際、ボールを持った攻撃側プレーヤーが、防御側プレーヤーからプレッシャーを受けていないにもかかわらず、後方の自陣エリアにいる味方に向かってパスを返した場合。(プレッシャーを受けている場合は、予告合図を示す。)

【レフェリーとして大事な視点】

普段、選手やチームが練習してきていることを最大限に発揮させてあげるという視点を持ち、「どのようなマネジメントを行うか？」を追求することが、「チームや選手を助けることに繋がる」という考え方。

【今大会及びレフェリーミーティングを振り返って】

「判定する上での分析の視点」を具体的かつ細分化してご指導いただいたことで、違反行為の見極めや防御側の評価について、明確な根拠を持って判断する手段を学ぶことができた。今後の課題としては、理解していても反応が遅れてしまう部分があるので、瞬時に対応できるよう、映像分析や実践を重ね精進していきたい。